

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 子どもたちに顔が見える日常を取り戻すために（20分）</p> <p>コロナ下での生活の変化の中で子どもたちに影響が大きかったこととして、マスクの着用や友達の家との行き来、タブレット端末の導入や行事の中止、給食の黙食等があげられます。</p> <p>今年度5月、厚生労働省は熱中症のリスク回避から、近距離（2メートル以内を目安）で会話するような場合を除いて、屋外ではマスクをはずすよう、場面に応じた適切な着脱を薦めています。</p> <p>屋外では、マスクを外して歩いている方を見かけるようになりましたが、子どもたちはどうしているのでしょうか。</p> <p>マスク生活が長引くことで、一番心配なのはコミュニケーションが阻害されることです。</p> <p>シドニー大学音声研究所の研究によれば、マスクをすると、特に1000Hz（ヘルツ）以上の高い周波数を持つ子音が伝わりづらくなるということです。</p> <p>そして、人は、表情からも相手の気持ちを読み取ることで、お互いが考えていることを伝え、理解や認識を共有してきました。大人でも目元だけでは言いたいことがお互いにうまく伝わらないことがあります。</p> <p>子どもたちが対人関係を築く力を身につけなければいけない重要な時期に、マスクで顔の半分が見えないでいるという現状に不安を覚える保護者も少なくありません。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況は刻々と変化していますが、工夫することで子どもたちに顔が見える日常を少しずつ取り戻せるのではないかと思います。</p> <p>感染防止対策は優先されるものではありますが、子どもたちへの対応について伺います。</p> <p>（1）学校におけるマスク着用の考え方は。</p> <p>（2）マスク生活におけるコミュニケーション能力の育成は。</p> <p>（3）保護者、児童・生徒の判断の尊重は。</p>	<p>市長 教育委員会教育 長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>2 国際セクシュアリティ教育ガイダンス（包括的性教育）の取組について（20分）</p> <p>昨年9月議会で、厚生労働白書と警視庁統計から経済生活問題、DV被害、育児の悩みなど自殺の要因となりかねない様々な問題が新型コロナウイルス感染症の影響で深刻化し、女性の自殺者数の増加に影響を与えている可能性について質問し、本市でも虐待、女性相談 DV相談が増えているという報告を受けております。</p> <p>日本の性教育について、現在の学習指導要領では、正しい性の知識を身につけられない、性暴力を防ぐには不十分だと指摘する声があります。</p> <p>子どもたちに必要な知識が伝わっていなければ、予期せぬ妊娠や性暴力、性犯罪被害に結び付いてしまいます。</p> <p>国連教育科学文化機関・ユネスコは、5歳から幅広く性について学ぶ国際的な性教育の指針「国際セクシュアリティ教育ガイダンス（包括的性教育）」を行う方針を示しています。健康と福祉の促進、人権とジェンダー平等を尊重し、子どもや若者が健康で安全で生産的な生活を送ることができるようにすることを目的としています。</p> <p>文部科学省では、2020年から、幼児から小学校、中学校、高校、大学生等を対象とした「生命（いのち）の安全教育」を進めるとしていますが、まだ、浸透しているようには受け取れません。</p> <p>「生命（いのち）の安全教育」と「国際セクシュアリティ教育ガイダンス（包括的性教育）」について、本市ではどのように取り組んでいくお考えなのか伺います。</p> <p>(1)「生命（いのち）の安全教育」の取組について ア 学習指導要領での体系化は。 イ 教員、保護者の学ぶ機会は。</p> <p>(2)「国際セクシュアリティ教育ガイダンス（包括的性教育）」の活用について ア 「生命（いのち）の安全教育」との違いは。 イ 「国際セクシュアリティ教育ガイダンス（包括的性教育）」を取り入れる考えは。</p>	市長 教育委員会教育長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>3 認知症バリアフリーの取組について (20分)</p> <p>日本における65歳以上の認知症の人の数は2020年現在で約600万人と推計され、2025年には高齢者の約5人に1人、約700万人になると厚生労働省は予測しています。</p> <p>2019年6月、認知症施策推進関係閣僚会議がまとめた「認知症施策推進大綱」によれば、「認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる」という「共生」と、認知症になるのを遅らせる、認知症になっても進行を緩やかにする「予防」を両輪として掲げています。</p> <p>本市では、「共生」の取組として、見守りネットワーク、オレンジカフェにこまる、認知症サポーター養成講座等、また、「予防」の視点では、介護予防教室やシルバーeスポーツに積極的に取り組んでおられるのは承知しております。</p> <p>生活圏にどのような配慮をすべきかを認知症の方の視点を生かそうという試みとして、東京八王子市の中央図書館で、認知症の方が市教育委員会の職員と趣味の本を探したり、案内板がわかりやすいか等をチェックしながら館内を歩いたという記事を目にしました。</p> <p>認知症の人にやさしいまちや地域は、認知症の当事者の方や家族の方の目線で作ることが望ましいと思います。</p> <p>元気な高齢者が多い本市ですが、10月1日現在、高齢化率は29.1%となっています。</p> <p>生活環境において、認知症になっても普通に暮らし続けていくための障壁を減らしていく「認知症バリアフリー」について、市のお考えを伺います。</p> <p>(1) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に基づく市の取組は。</p> <p>(2) 認知症バリアフリーの取組は。</p> <p>(3) 今後の認知症対策は。</p>	市長